2002.3.15
第117号

編集・発行
福島県教育庁
会津教育事務所
峯島和彦

編集協力
北会津・耶麻・両沼
地教委連絡協議会
小・中学校長会

# 今、学校が求められているもの

会津自然の家所長
前福島県教育庁会津教育事務所業務次長
湯田一秋

昨年十二月に、県内の学識経験者・市町村長・県会議員で構成された福島県学校教育審議会から福島県教育委員会へ、諮問のあった「社会の変化に対応した本県教育の在り方について」の第二次答申がなされた。

この中の一つに、二十一世紀を担う本県の児童生徒の育成について－学校、家庭、地域社会はどのようにあるべきか－がある。

学校へは、当然のことながら「読・書・算」などの基礎的な学力をしっかり身に付けさせることをあげている。将来に渡って学び続けることのできる基礎的な力が期待されている。一人一人に着実に身に付けさせるためにも、効果的な個に応じた指導の充実が求められる。小集団学習の充実やTT指導の実践など、各学校において組織をあげて取り組むことが急務である。

また、コミュニケーション能力の育成が求められている。あいさつや正しい言葉遣いを大切にし、自分の考えを表現できる力の育成である。これもまさしく基本的なことである。学校のあらゆる教育活動や生活の中で具体的に指導するとともに、心を開いて交流できる望ましい環境づくりに努めなければならない。

当然、家庭との連携や地域社会との連携を図ることも期待されている。

家庭との連携においては、学校行事等への協力に限らず様々な教育活動へ積極的に参加するよう働きかけることが大切となってくる。また、家庭生活における言葉づかい、食生活と生活リズム等についてもより一層共通理解を図りながら指導していく必要がある。

地域社会との連携を図るためには、学校の教育方針や学校の現状について支障のない限り発信し、ともに取り組む必要性を実感してもらうことが大切である。内容によっては、人材をはじめとした地域の教育力を活用したり、地域社会の願いを学校経営に取り組むなども考えられる。地域社会に開かれた学校経営が期待されている。

第五次福島県長期総合教育計画を踏まえながらこのような教育活動を戦略的に進めていくためには、私たちの意識も子どもの学びを支援するという意識の転換と従来以上に家庭や地域との連携を図りながらともに育てるという意識に立たなければならない。

教育は、人と人との関係においてなされる。それにつけていつも思い浮かぶことばがある。「人間というのは生まれながら好きな人、尊敬する人の言うことを聞くようにプログラムされている。」というものである。教職員としての専門性を高め、豊かな人間性を培うための修養が肝要である。

## 各種受賞紹介

（敬称省略）

**○文部科学大臣表彰**

・地方教育行政功労者
熱塩加納村教育委員会委員長　田部吉兵衛

・地域文化功労者（文化財保護功労）
昭和村文化財保護審議会委員長　馬場勇伍

・学校安全関係
会津若松市立行仁小学校

・学校給食功労者
会津若松市立第三中学校長　原康之

・体育功労者
会津若松市体育協会長　林幸夫

・体育指導委員功労者
（元県体育指導委員連絡協議会理事）鈴木周則（塩川町）

**○県教育委員会表彰**

・地方教育行政功労者
（前喜多方市教育委員会教育長）齋藤安俊

・学校教育功労者
会津若松市立譜教小学校長　渡部敏郎
会津若松市立第一中学校長　長谷川昭江

・保健体育功労者
福島県なぎなた連盟理事長　山本和子
会津水泳連盟顧問　五十嵐宏
福島県立若松女子高等学校医　黒河内達郎

・社会教育功労者
（元会津若松市大戸公民館長）長尾博喜

・社会教育関係功績顕著な団体
湯川村婦人会

・芸術文化財保護功労者
（前金山町文化団体連絡協議会長）星賢正

**○福島県学校歯科保健優良校表彰**

・優秀校
河東町立河東第三小学校
喜多方市立豊川小学校
塩川町立塩川小学校
山都町立山都第二小学校
山都町立山都第三小学校
三島町立三島小学校
高郷村立高郷中学校

**○県学校給食会長・県学校給食研究会長表彰**

・学校給食優良団体・個人
磐梯町学校給食共同調理場
（前喜多方市立入田付小学校長）佐藤紀子

**○第五十二回学校関係緑化コンクール**

◇学校環境緑化コンクール
・知事賞　福島民友新聞社社長賞
北会津村立川南小学校
・福島県総合緑化センター理事長賞
喜多方市立慶徳小学校

**○環境美化教育優良校表彰**

・散乱防止部門　優秀校
会津若松市立鶴城小学校

**○福島県学校教職員研究論文入賞者**

特選　会津若松市立鶴城小学校
入選　会津若松市立行仁小学校
奨励賞　会津坂下町立坂下幼稚園

## 特色ある学校紹介

# 個人カルテで個を生かす

会津高田町立旭小学校

本校は小規模校であり少人数の学級多いが、学習指導における児童一人一人の個人差が大きく、また、それぞれの学級集団はそれぞれの特質を持っている。それらの個及び集団の特質に応じた指導を行うには、的確な実態把握とその生かし方が重要であると考え、児童理解の方法を、各種調査における数値のみの一面的なものから、その詳細な内容分析と日常観察とを組み合わせた総合的なものへと転換した。その結果、児童一人一人のよさを再発見できたり、得意な学習スタイルや思考形態、具体的なつまずきとその原因を明らかにできたので、それらを日常の指導に生かすため「個人カルテ」と「学習プラン」を作成し活用した。今回は、算数科の実践を紹介したい。

**【指導基礎資料】**

①個人カルテとは

総合的児童理解により明らかになった児童一人一人の実態、それに基づく目指す姿、その実現のための指導方法と実際の指導の経過等を記載したもの

②学級プランとは

学級の特徴を生かした集団への年間を通した手立てだてや、重点的に個別指導が必要な児童への年間を通した手立てを記載したもの

**【具体的な実践例】**

①児童の学習スタイルを生かした小集団学習

二年「千までの数」の実践

トウモロコシのタネの数を数える活動では、個人カルテにより感覚運動型の学習スタイルの児童KとTを同じグループに編成して授業に入った。具体物操作により認識が深まるスタイルの児童を同じグループに編成したことで、児童自ら百の束に着目できた。それにより、スモールステップ指導が必要な児童Mの解決に十分に関わることができ、学級全体で十進数の仕組みの理解が深まった。

②豊かな感覚の個を生かした集団の高まり

六年「比例」の実践

数感覚が豊かな児童HやBには、学級集団全体での比較検討の場において深まりのある集団思考ができるように、意図的にグラフの意味にまで自力解決を深めさせた。全員での比較検討では、それぞれの個の解決を認めながら、HやBの「グラフは点の集合としての直線であることや、原点を含めて一つ一つの具体的な事象の連続である」という考えを取り上げたことにより、集団としての解決を深めることができた。

以上のような実践を通して、学級集団の特性や個の特性とつまずきを明確にし、それに応じた支援を工夫しながら基礎学力向上を目指してきた。今後も子供達のわかった喜びの広がりを願い、確かな学力が一人一人身につくように実践と改善を図っていきたい。

## 生涯学習だより

# これからの家庭教育の推進について

児童虐待の急増や校内暴力、不登校、ひきこもり等の青少年の問題行動の深刻化・多様化に対し、家庭や地域の教育力を向上させるための体制整備を図るとともに、社会教育と学校教育、家庭教育との連携を促進することを目的とした社会教育法が昨年七月に改正・施行された。

これにより、家庭の教育力の向上を図るために、教育委員会や公民館等の社会教育施設が自ら講座や集会を開催すること及び民間の社会教育団体等が開催する講座や集会を奨励することが教育委員会の事務として規定されるとともに、家庭教育の向上に資する活動を行う者を社会教育委員や公民館運営審議会の委員に委嘱できることになった。

このような状況の中で県では、家庭教育支援の充実の一環として、「子育て学習県民講座」事業に重点的に取り組んでいる。

概要は次の通りである。

● **①妊娠期子育て講座**（平成十四年度新規）

妊娠期にある親を対象とした親子のふれあいやしつけ、コミュニケーションを内容とするもの

● **②就学時健診等を活用した講座**

乳幼児や小学校へ入学する子どもを持つ親を対象に就学時健診等を活用した家庭教育のあり方・しつけを内容とするもの

● **③思春期の子どもを持つ親のための子育て講座**

中学校の学校説明会や保護者会を活用した思春期にある子どもの問題行動への対処方法などを内容とするもの

これらの講座は、出産から子育ての節目の各時期に対応した家庭教育の充実を図るため、「子育て学習」事業として全国的に展開されるものであり、その特色として

ア　子育てにかかわる多くの親を対象とすること

イ　地域社会全体で子育てを考えること

ウ　厚生労働省・法務省等との連携によること

等があげられる。

事業の推進にあたっては、対象者の集まりやすい場所や時期の選定をはじめ、保健所・警察署・母子保健部局等の関係機関との連携や臨床心理士、保健士、家庭教育インストラクターなどの専門職員はもちろん、保護者、子育てサークルのリーダー等の協力を得ることがこれまで以上に必要となる。

このような事業の推進役として教育委員会が位置づけられており、これからの家庭教育の推進においては、これまで以上に教育委員会の出番が求められてきている。

各市町村教育委員会におかれましては、国（県）の動向を注視し、「子育て県民講座」とともに「子育てサポーター」の設置や「電話相談事業」等の「子育て支援ネットワークの充実」の事業の活用も図りながら、主体的に学校・家庭・地域との連携のもと、支援体制を整備し、「各地域での特色ある家庭教育」の推進・充実を図っていただきたい。

教育の原点は、家庭であることを自覚する。

教育改革国民会議報告より

# 学校教育相談

## 褒められることが恐怖だったK子

学校教育相談員　山内　昇

K子は小さい頃から、利発で整理整頓のしっかりできる子であった。小学校に入学すると持ち前の几帳面さを発揮して、家庭でも学校でも褒められ、特別扱いされるようになった。小学校五年生の頃は学級全体がK子の影響を受けて、まとまりのある模範的な雰囲気をもつ学級になっていた。六年生になり、係活動の範囲も広がり内容も責任のあるものが多くなった。しかし、いずれも完璧に成し遂げた。そして、その活動ぶりを学校の教職員は絶賛し、両親もそんなK子を誇りに思っていた。一方、K子は周囲の人々の期待を裏切らないために、自己の能力を超える範囲まで頑張った。そして遂に、一学期の終わりに初めて「疲れた」と母親や学級担任に訴えた。だが、双方ともこれまでの実績を褒め、「あなたなら、まだまだ頑張れる」と励ますことのみで、K子の「心」を聴いてはやらなかった。学校と両親から、教育相談の要請を受けたのは十月下旬で、K子が学校を休んで三日目だった。幸いに、学校側も両親もK子の心理状態に正しい理解と認識をもって対応してきたため、その後順調に改善しているが、二年が経過した現在もまだ、自分の行為に対する周囲の人々の評価を異常に気にする視線恐怖の様相を残し、保健室登校をしている。

# 私の実践

## 数学科の図形の学習において自らのつまずきに気付き、主体的に克服しようとする生徒を育成するための指導
### －マイカルテの工夫と活用を通して－

会津若松市立第一中学校　五十嵐　正　彦

数学科の学習を通して、生徒が、自己のつまづきを理解し、見通しを持って主体的に問題解決ができる能力を育成したいと考え、次のような実践を試みました。

まず、生徒の実態調査や学力検査の結果等より、特に苦手意識が強く、基本的な内容の定着が不十分な「図形」領域に的を絞り、「自らのつまずきに気付き、主体的に克服しようとする生徒の育成」に取り組むことにしました。

各自がつまずきを明確にし、見通しを持って主体的に克服する手立てとして、次の点を工夫した、単元ごとの自己評価票「マイカルテ」を活用しました。

○関連表により既習事項との関連を明確にし、どこでつまずいているのかを一目で分かるようにしました。

○既習事項にさかのぼって評価する（理解できたと思った時点で評価を変える）ことで、克服する実感をつかめるようにしました。

「マイカルテ」は、授業の中で、自分自身のつまずきの内容や疑問点を自由に記録し、それに対して、教師がアドバイスを与えるようにしました。

また、生徒自身が保管し、常に活用できるようにしました。

以上のような実践の結果、「図形の学習が好きになった」「満足感があった」生徒が七割から九割にのぼり、学力検査の結果からも、「図形」領域における学力の向上が明らかになりました。

また、教師自身にとっても、生徒一人一人のつまずきや変容をつかみ、よりきめ細かな指導援助を行うことができる、有効な手立てであると実感しました。

今後は、他の領域においても実践研究を進めて行きたいと考えています。

# 地域に学ぶ

## 古代布からむし織の里から

昭和村教育委員会

昭和村には、六〇〇年の伝統に培われた「からむし織り」が継承されております。からむし織りは、イラクサ科の植物で、その繊維により織り込んだ織物です。全国でもこれに類似した織物は、新潟県の越後上布と沖縄県の宮古上布があります。

布地は強靭で吸湿性に優れており、夏着の上布として利用されてきました。江戸時代には袴や裃等に仕立て、時の為政者への献上品として使われていました。

戦後、工業化の進展と化学製品の普及等によって衰退の一途にありましたが、昭和四十八年に行政・農協・生産者が一体となり「からむし」を守るために組織化をはかり、現在奥会津昭和村振興公社が業務を引き継いでいます。

平成六年には、後継者の育成のため「織姫事業」に着手しました。この事業は、からむしの栽培から織りまでの全行程を一年間研修するもので、全国より応募があり、現在八期生が研修に励んでおります。この事業がきっかけとなり、新たな文化や考え方が村民に刺激を与え、村おこしに大きな影響を及ぼしています。

また、平成十三年七月には、「からむし織の里」がオープンしました。その中に「からむし工芸博物館」と「織姫交流館」を併設しました。当施設は、村外との地域間交流を図りながら、からむしと地域文化を多くの人に理解していただくことを目的としております。さらに今年五月には、隣接して「郷土食伝承館」を開館する予定で、一層充実した施設にする計画です。

# 私の抱負

## 子どもたちに感動体験を

猪苗代町立長瀬小学校
校長　佐藤米子

「美しい自然　美しい町　美しい心…美しいいなわしろの創造」を担う子供の育成を目指す猪苗代町に赴任して一年になろうとしている。四季折々のすばらしい景観や周囲の人々の心の温かさに感動する毎日である。

この自然や人々の恵みを受けて生きていることの幸せを多くの子供たちに感じてほしい。それには毎日の学校生活の中で、子供たちの心を揺れ動かす体験をさせる。それが感動体験となり、それを積み重ねていくことによって豊かな感性が育っていくのではないかと思う。

恵まれた教育環境を生かし、自然や地域の人々とのかかわりや感動体験活動を充実した学校づくりに努めていきたい。私たち教師の感性にも磨きをかけて。

## 菊づくり

三島町立三島中学校
教頭　佐藤忠一

三年技術を担当して菊づくりを行った。初めての経験であり、知識も技術もなく花を咲かせることができるのだろうかと不安ばかりが頭をよぎった。多くの方にアドバイスを頂きながら進めてきたが、菊の生育がよくないため一向にその不安が消えることはなく、毎朝校舎巡視の際に菊の生育状況の観察と水くれが日課となっていた。

十月、すべての生徒の菊が見事な大輪の花を咲かせた。子供たちのために何とか花を咲かせたいという思いと多くの方の協力のおかげである。本校の目指す「生徒や教師にとって明るく生き生きとして楽しい学校」づくりのため、お互いに協力し合う体制作りとひたむきに取り組む姿勢の大切さを菊づくりの体験を通して実感することができた。

## 秘伝の味

喜多方市立松山小学校
教諭　酒井賢司

ラーメンの街として全国的に有名な喜多方には、約一二〇軒もの店がありどこでも基本部分を守りつつ、秘伝の味で互いにしのぎを削っています。

初任地の会津で私はまず、一社会人としての常識をしっかりと身に付けたいと思います。そして、教師として、常に子どもの目線に立つという基本姿勢を忘れず、さらに「ならぬものはならぬ」という会津の精神を身に付け、唯一無二の秘伝の味をつくりだす努力を続けていきたいと思っております。

# 心に残る人々

湯川村教育委員会教育長
鈴木昭彦

教員の就職難は、四十五年前でも今とさほど変わりなかったと思われる。当時、一次試験が通れば、ほぼ校長裁量で決まると聞いていたので、福島市内の高校を三校ほど高校長に面接を乞うて廻った。一面識もなくて会ってもらうのだから、うまく進まないのはあたりまえ。

そんな中で、一人の高校長が、君は同じ大学出だなと言うことで、名刺に他の校長への紹介文を書いてくれた。そして「俺の息子にも将来教員志望がいるんだが、又その時は頼むぞ。」と言われた。それとなく「頼れる人になれよな。」と言われた気がして胸が熱くなった。それを頼りに川俣高校まで尋ね歩き、結果は内定を得ることに繋った。

初任校は研究熱心な先生がいて、「専門教科ができないと信頼されないぞ。英語はしゃべれないとだめだぞ。」と目標レベルに向けて発破をかけられた。

それから転勤して十年後、県の第一回海外派遣研修でアメリカ往きに恵まれたとき、その先生が自力テスト合格でリーダーになって同行された。先達の有り難き言葉とともに、ニューヨークの巨大ビルを仰ぎ見た強烈な印象が甦った。

# 作品と指導

絵

## 大きなうみでつりをしたいな

猪苗代町立猪苗代小学校
一年　土屋将真

〈指導の工夫〉
「もしも、こんなあそびができたらいいなあ。」と思うあそびについて、場所や何をしたいかを話し合いながら、イメージをふくらませていきました。

大好きな海と、そこに住む生き物、空に浮かぶ雲や鳥まで、楽しくつりをしている将真くんにほほえみかけているようです。

背景は、水をたっぷりふくませた筆で大きく広げていきました。青に緑や紫色を少し混ぜながらぬったところが、とてもきれいな空の色に成りました。　指導者　河原田　理佳

彫塑

## にぎる手

塩川町立塩川中学校
一年　三瓶知美

〈指導の工夫〉
手には、その時々の気持ちが表情として現れる。手にまつわるいろいろな思い出、印象に残っていることを思いだし、スケッチをし、芯材に粘土をつけていく塑造の方法を用いた。

この作品にはラケットはつくられていないが、にぎった手に力がこもり、重感豊かな表現がにじみでている。　指導者　齋藤紘子

絵

## 小学校の思い出

本郷第一小学校
六年　間部さゆり

〈指導の工夫〉
「六年間、お世話になった学校」をテーマに、学校をいろいろな角度から観察し、また、小学校生活六年間の思い出を話し合わせながら、子ども達一人ひとりの思い出を表現させるようにした。

吹奏楽部で使っていた楽器とお世話になった学校を上手に表現することができた。

指導者　長澤秀弥